

5

一般社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 24 年 4 月 30 日(月)

□相談年度:平成 23 年度

■ ～生殺与奪～支柱なき家族の絆とは■ ～母親を奴隷にした長男、そこから見えてくる家族の原点～

- 仮名：杉山さん
- 年齢：50代
- 性別：女性
- 問題：家庭内暴力

父親は50代の営業マン。母親も50代。専業主婦だったが、昨今の不況もあって、最近パートに行っている。長女30歳。同居しているが、仕事もして経済的には自立している。問題が長男。現在28歳、10代後半から9年間、引きこもり状態である。

【母親を奴隷にした、28歳の長男】

父親は家庭に無関心で、家族を顧みない男性だった。家のことは妻に任せっぱなし。ことあるごとに妻を愚弄する。子供には暴力はふるわなかったが、いい父親だったかどうか疑問だ。

気が弱く内向的な妻は、夫に反抗できずにいた。その分、子供に愚痴を言うようになった。娘が社会人となり、母親のはげ口は息子へと集中した。父親の横暴さを目の当たりにしてきた息子は、母親を不憫に思い、かばっていた。かといって、まだ幼かった息子は体力的に父親には対抗できなかった。

息子は大学受験に失敗。相変わらず、母親の愚痴を息子は聞かされ続けた。見るに見かねた息子は、母親に「そんなにイヤなら離婚すればいいじゃないか」と助言した。長年、その目にかわいそうな存在として映っていた母親が、ある日「情けない母親」「煮え切らない母親」に変わった。愚痴をこぼすばかりの母親に憎しみを覚えるようになった。受験のストレスもあったのだろう。息子は母親に暴力をふるうようになった。食事が合わないと、テーブルをひっくり返す。父親の生き写しである。父親に暴力はふるわない。しかし、母親同様、父親にとっても息子は恐怖の存在になっていた。「金」を無心されると、黙って1万、2万と手渡す日々が続いた。今まで父親が暴君だったが、今度は息子がそれに代わった。母親はうつ病になり、父親も心を病んだ。いや、心の病に逃げたのかもしれない。妻同様、うつ病になり、かつて暴君だった影は薄れ、気弱になった。

【子どもの問題ではなく夫婦の問題】

電話相談後、娘が両親を連れてやってきた。父も母もどうしていいかわからないといった感じだった。そもそもの課題は「家庭内暴力について」である。しかし、話を聞いていくうちに、夫婦の話しになった。根っこはそこにあったのだ。

「お前の育て方が悪い」父親は母親を責める一方だった。息子がサラ金から借金し、催促状が来る。それを母親が全部支払っていたのだ。父親も母親もどんどんボロが出てくる。結婚して夫婦が対等に話し合える場がなかったのである。

夫は先のことばかり見て、妻は昨日のことばかり考えている。そんな夫婦だった。どうなるのかわからない未来を妄想する夫。通りすぎた過去を追いかけている妻。この家族には今がない。息子の家庭内暴力の相談で来たのに、いつしか夫婦の問題になっていた。揺戻しである。しかし、この溝をおさなりにしている限りは、息子の話まで到達できない。

【支柱なき家族、懺悔から始まる】

家族間でもまともに話したことがない一家だった。混乱した母親は、「要するに私たちが原因なんです」と嗚咽した。「あの子もかわいそうな子……」「バカちゃう？ そんな言うてもな、いつまでも親が悪かった言うてたら、もっと増長してまうやんか。そういう甘えがあかん。そういうふうで育てた私らがあかん言うけど、もう関係ないねん」「まず、夫婦の原点。どこで絆を持つかや。とにかく夫婦で話し合い、徹底的に。どうしようもないなら離婚せんかい。息子がどうのこうの言うてる場合ちゃうやんか。あんたらがどう生きるか。あんたらがこれからどう生活していくかが先や。息子はほっときんかい」それぞれの生き方も見出せない夫婦が息子の話しをするなど、お笑い種だ。「現実的に離婚ってなったら、おたくら二人(娘と母親)は出てけば終わりやん。離婚いうたら、他人やから。あとは、お父さんが息子の面倒をみる。あんた(父親)が今日から家事いっさいして、息子に金やらんかったら、しまいや。今度は男対男や。そこで殴り合いでもやりな」「今、目の前にある家族の現実、誰が揺り起こしてるかっていうたら、その息子やんか。息子が発見させてくれたんや。そやろ？」

妻が離婚話を切り出したのも初めてなら、夫婦、親子が互いの気持ちを認識しあったのも初めてだった。「まず家族同士、言いたいこと全部言ってみ。おやじは謝るところはちゃんと謝る。お母さんもお姉ちゃんも非は認めると。それぞれ懺悔しい。その上で、もういっぺん、家庭を、家族をやっ払い、やり直したいと思うなら、その意向を息子に伝えたらええやん。それでもなお、息子が暴力をふるったり、引きこもったり、無視するんやったら、息子を突き放せ。



ヒューマンネットワーク形成のため「相談を本部と中継する」駆け込み寺連絡所を拡大中。

【ここが POINT】

父親、母親の立場もあるけど、それ以前に、一個の人間として自立せなあかん。自分の人生を歩む。息子は息子の人生。息子には当然、自立をうながし、放りだしたらいい。その前に、格好つけずに、それぞれの立場言わずに、一人の人間として話すこと。

大事なものは、まず視点を変えること。争点は何か。突き詰めていくと原因は何か。各自が自らの問題を認識するために話合うのだ。垣根も見栄も照れも憎しみも取り払い、現実を直視する。お互い自由にものが言えるようになり、介在していた霧が晴れば、あとは黙っていても、悪い方向へ行くわけない。